令和元年度 第四次福井県恐竜化石発掘調査計画書

１　調査目的

恐竜博物館が勝山市北谷で進める第三次恐竜化石調査（平成１９年度から２２年度まで実施）では、新たな骨化石含有層を発見し、新種の竜脚類であるフクイティタンや、全身の７０パーセント以上が保存された小型獣脚類（フクイベナートル）を発見した。さらに、イグアノドン類の下あごを４つ発見し、従来知られていたフクイサウルスとは別の種類のイグアノドン類（コシサウルス）がいたことも明らかになった。

第四次恐竜化石調査は、当初、平成２５年度から２８年度まで４年間行う予定であったが、鳥類化石の発見や足跡化石調査など、時間を要したため２年延長した。その後、アンキロサウルス類の歯化石なども発見され、平成３０年度にはこれまで指先の化石しか見つかっていなかったオルニトミモサウルス類の四肢骨を発見するなど、重要な成果が上がっている。

令和元年度以降も多くの成果が期待できるため、調査期間を令和２年度まで２年間再延長することとし、引き続き調査を行う。

本年度も、下流側に残っている同じ層準を慎重に発掘調査を行い、新たな部位、種類の発見を目指している。

２　調査期間：令和元年７月２９日（月）から９月７日（土）までの４１日間

３　調査予定地：勝山市北谷町大字杉山９４字土倉山７，８

４　調査予定面積：約１５０平方メートル

５　調査関係者

調査団長	東 洋一（福井県立大学恐竜学研究所教授・恐竜博物館特別館長）
調査副団長	竹内 利寿（恐竜博物館館長）
調査担当	柴田 正輝（福井県立大学恐竜学研究所准教授・恐竜博物館主任研究員）
調査副担当	野田 芳和（恐竜博物館副館長）・宮田 和周（恐竜博物館主任研究員）
	関谷 透・薗田 哲平・中田 健太郎・湯川 弘一（以上、恐竜博物館研究員）
	静谷 あてな・中山 健太朗・築地　祐太（以上、恐竜博物館研究職員）
	河部 壮一郎（福井県立大学恐竜学研究所准教授・恐竜博物館研究員）
	今井 拓哉・服部 創紀（福井県立大学恐竜学研究所助教・恐竜博物館研究員）
調査員	恐竜博物館職員、大学教員など
調査補助員	地質学・古生物学を専攻している大学生および大学院生
調査協力	勝山市教育委員会、勝山市小中学校理科研究会